

・ 分担研究報告-8.

令和元年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業） 脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設 研究班分担研究報告書

体軸性脊椎関節炎および末梢性脊椎関節炎診療の手引き作成

「体軸性脊椎関節炎； 臨床評価の指標」について

分担担当者：大友耕太郎（慶應義塾大学医学部リウマチ・膠原病内科）

研究要旨

脊椎関節炎（spondyloarthritis: SpA）は、体軸性および末梢性関節炎、腱・靭帯付着部炎、指趾炎、ぶどう膜炎などの共通の臨床像を有する疾患群であり、体軸が優位な体軸性脊椎関節炎（axial spondyloarthritis: axSpA）と末梢が優位な末梢性脊椎関節炎（peripheral SpA: pSpA）に分類される。これらの疾患、特にaxSpAはわが国においては稀であり、一般的に疾患認知度は低い。本研究班では、リウマチ専門医、整形外科医、一般内科医、研修医および専攻医を対象とした診断や鑑別診断の記載に重きを置いた実臨床に役立つ診療ガイド「脊椎関節炎診療の手引き」を作成することとなった。

この手引きのうち、「体軸性脊椎関節炎； 臨床評価の指標」について報告する。

A 研究目的

「脊椎関節炎診療の手引き」のうち、「体軸性脊椎関節炎； 臨床評価の指標」に関する部分を作成し、公表することを目的とする。

B 研究方法

上記内容について海外の論文、学会発表などを参考にして作成し、最終案を班会議で討議し、合議形成を行った。班会議で承認されたものをもとに、手引きを完成させ公表を行う。

C 研究結果

「臨床指標について」

強直性脊椎炎（AS）において、疾患の活動性や機能障害を定量化するための指標が各種開発され、実臨床や臨床治験で使用されている。疼痛の程度や血清学的炎症マーカー、付着部炎の有無、脊椎関節の機能や構造、全般的機能障害など、各評価対象に対応した指標がある（表1）。活動性・疼痛の評価として、患者のVisual Analogue Scale（VAS）によるBASDAI（Bath Ankylosing Spondylitis Disease Activity Index）が頻用されるが、近年患者VASに採血項目のCRP（またはESR）を組み合わせたASDAS（Ankylosing Spondylitis Disease Activity Score）も用いられるようになった。

腱付着部は複数存在するが、代表的部位の炎症をスコア化したMASES、SPARCC、LEIなどが使用される。脊椎の計測指標として、BASMI（Bath Ankylosing Spondylitis Metrology Index）があり、X線画像の評価法としてmSASSS（modified Stokes AS Spine Score）がある。ADLなど機能評価項目として患者VASによるBASFI（Bath Ankylosing Spondylitis Functional Index）がある。新しい総合的健康指標として、The Assessment of SpondyloArthritis international Society（ASAS）によるHealth Index（ASAS HI）が公開されている。

現時点でX線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎を対象とする臨床指標は無いが、ASに用いられるこれらの指標を便宜的に用いることが多い。

手引きではこれらの個々の指標についてわかりやすく解説し、臨床で有用となるよう記載した。

(表1) 体軸性脊椎関節炎における臨床評価指標

対象	方法	評価指標	
疾患活動性・疼痛(こわばり・不快感)	VAS	BASDAI	ASDAS
血清学的炎症マーカー	CRP, ESR, (MMP-3)		
腱附着部炎	診察、(US、MRI)	MEI, MASES, SPARCC, LEIなど	
関節構造/機能の障害	診察(計測)、XP、MRI	BASMI(実測)、mSASSS(XP)、SPARCC MRI SSS(MRI)	
全般的機能障害	VAS、質問表	BASFI, ASAS Health Index(HI)	

D 考察

これまで体系的にまとめられた脊椎関節炎の診療の手引きは少なく、「臨床評価の指標」を含め、本手引きは実臨床において有用と思われる。

E 結論

「脊椎関節炎診療の手引き」のうち「臨床評価の指標」を担当し作成した。